

うさぎのように飛躍の一年に!!



今年の干支はうさぎです。健康に気をつけて元気よくぴよんぴよんとびはねて楽しい一年にしていましょ。う。

土田地区センターでは、みなさんが地区センターを利用して楽しく活動できるようなことを計画しています。

例えば、さつまいも掘りやとれたさつまいもを畑で焼いて食べるやきいも会。1年を通して学ぶ横笛教室、茶道教室（お茶）。1年生からでも参加できるバドミントン教室や工作教室などいろいろな活動があります。参加したほとんどの人が「楽しかった。」「また、来年もやってみたい。」と言っています。

まだこうした地区センターでの活動をやったことのない子もたくさんいると思いますが、ことしは、一度ちょうせんしてみてもはどうでしょう。みなさんがきてくれることをまっています。そうそう、地区センターの活動ではありませんが、映画会もやっています。センターからの案内をみて申し込んでくださいね。ここからは、ちょっとしたお話です。

私は土田地区センター長になる前に小中学校の先生をしていました。美濃加茂西中学校で野球部の顧問をしていた時のことです。冬休みの宿題で書き初めがありました。書く文字は自由。その書き初めてで多くの野球部の2年生が、「全国大会出場」とか「全国制覇」などと書いていました。顧問の私としては「大きく出たもんだなあ」と思ってその廊下に張り出された書き初めをニコニコしながら鑑賞していました。その彼らが3年になり中体連大会が始まったとき連戦につぐ連戦を勝ち進み、県大会優勝を果たし東海大会も準優勝で本当に全国大会を勝ち取ったのです。夢を現実のものにしたすごい生徒たちだなあと思いました。ただ、ベスト4に勝ち上がりあと1勝で全国大会となる準決勝。1アウト満塁からの特別延長ルールになりました。表の攻撃の私達のチームの1番バッターは4ボールを選び、まずは1点先制。その時です。まだ裏の攻撃があり負けたわけではない相手チームのピッチャーがマウンドで泣きはじめたのです。その選手は、キャプテンで4番バッターしかもピッチャー、責任の大きさに押しつぶされたのでしょうか。その後、もうほとんどストライクが入らなくなりました。結局私達のチームが勝ち、全国大会に出場できたのです。夢はあきらめた時に終わる。本当にそんなことを感じました。みなさんはまだ若い。可能な夢（目標）を持って生活して行ってくださいね。応援しています。

ちなみに翌年は、春の大会を勝ち進み県大会で準優勝し、中部8県大会に出場しました。昔のドラゴンズのホーム球場名古屋球場での開催でした。その大会には、中学生だった松井選手やイチロー選手も出場していたと後から聞きました。対戦相手とはなりませんでしたが、開会式の入場行進で大リーグで活躍したその2人の選手がいたことは私のいい思い出です。

土田地区センター長 渡辺 佳久

